

日本学術振興会  
炭素材料第117委員会  
第302回委員会議事録

1. 日 時 平成24年7月13日（金） 9:30~17:00
2. 場 所 東京都市大学 世田谷キャンパス3号館4FメモリアルホールA
3. 出席者40名（順不同・敬称略）

委員長： 寺井隆幸（東大）

主 査： 川口雅之（大阪電通大）、児玉昌也（産総研）

幹 事： 稲垣道夫（北大）、安田榮一（東工大）、遠藤守信（信州大）、  
吉田明（東京都市大）、京谷隆（東北大）、尾崎純一（群馬大）、  
豊田昌宏（大分大）、小林知洋（理研）

委 員： 阿久沢昇（東京高専）、岩下哲雄（産総研）、太田道也（群馬高専）、  
小田廣和（関西大）、鏑木裕（東京都市大）、川野陽一（新日鐵化学  
／代理：水内和彦）、近藤純子（東洋炭素／代理：森下隆弘）、  
塩山洋（産総研）、柴田大受（原子力機構）、新野仁（物材機構）、  
杉本久典（日本黒鉛工業）、園部直弘（クレハ／代理：馬場貴規）、  
高波浩（タンケンシールセーコウ／代理：木村直文）、羽鳥浩章（産  
総研）、福田敏昭（東海カーボン／代理：鶴田佳子）、向井紳（北大）、  
河井隆伸（日本カーボン／代理：柴田博史）

委員外： 白石壮志（群馬大）、寺西春夫（石川カーボン科学技術振興財団）、  
夏目勇（東海カーボン）、西澤節（神戸製鋼）、菱山幸宥（東京都市  
大）、

同伴者他： 清原健司（産総研）、吉澤徳子（産総研）、干川康人（東北大）、伊藤哲雄  
（タンケンシールセーコウ）、川村良一（タンケンシールセーコウ）、  
曾根田靖（産総研）、長山勝博（JFEケミカル）

#### 4. 本委員会議事経過

寺井委員長司会の下に本委員会を開催した。

##### 4.1 前回議事録の承認

第301回議事録（案）を承認した。

C 分科会議事録については以下を修正する。

5-6 行 高粘性流体化に → 高粘性流体に

B 分科会議事録については以下を修正する。

1 行 塩山洋氏は → 塩山洋委員は

14 行 児玉昌也委員は → 児玉昌也主査は

## 4.2 第 117 委員会関係

### (1) 委員長報告等

#### (a) 委員の異動

・委員交代

(退任) 株式会社 富士カーボン製造所 専務取締役 大平雅彦 様

(新任) 株式会社 富士カーボン製造所 研究室 室長 浮森 悟 様

#### (b) H23 年度決算、H24 年度予算案について

・ H23 年度決算、H24 年度予算案の報告を行い、繰越金水準や学振協力会補助の推移について説明を行った。

#### (c) 第 3 回日独合同セミナーについて

尾崎幹事より以下の報告があった。

- ・ 2012/6/25 (月) ~26 (火) に Berlin で開催された。
- ・ 日本側参加者 16 名 (講演 11 件)、ドイツ側参加者 37 名 (講演 10 件)
- ・ 次回は済州島にて行われる Carbon2014 の後に、向井委員がホストとなり北海道で開催。
- ・ 今後セミナーの方向性の明確化、資金確保等について議論を行う。

#### (d) 量子ビーム融合化利用研究について

豊田幹事より以下の報告があった。

- ・ 科研費新学術領域研究に 2 回目の応募を行ったが不採択であった。案を修正し、3 回目の応募を行うとのことなので、117 委員会として協力する。

#### (e) 次回以降の予定について

H24 第 3 回 (303 回, ABC) 9 月 14 日 (金) 東工大 (会場担当: 榎幹事)

H24 第 4 回 (304 回, BCDA) 11 月 15 日 (木) 16 日 (金) 産総研 (会場担当: 児玉幹事) (15 日は特別講演会)

次回、来年度の予定について概要を提示する。

## (2) 分科会報告

- (117-302-C-1) 高温ガス炉用黒鉛の気孔状態と圧縮強さ  
角田淳弥<sup>1</sup>, ○柴田大受<sup>1</sup>, 藤田一郎<sup>2</sup>, 黒田雅利<sup>3</sup>, 橘幸男<sup>1</sup>  
(日本原子力研究開発機構<sup>1</sup>, 東洋炭素<sup>2</sup>, 熊本大学<sup>3</sup>)
- (117-302-C-2) 等方性グラファイト材料の高温引張試験  
○岩下哲雄 (産総研・計測フロンティア研究部門)
- (117-302-C-3) 単層カーボンナノチューブのキャパシタ電極材料として可能性  
○羽鳥浩章 (産総研)
- (117-302-A-1) 細孔径が小さい多孔性炭素電極の熱力学：モンテカルロ法による解析  
○清原健司, 塩山洋 (産総研・関西センター)
- (117-302-A-2) ラマン1次スペクトルにおけるD, Gバンドピーク強度比ID/IGから結晶子寸法を評価するKnightとWhiteの式に対するコメント  
○菱山幸宥<sup>1</sup>, 吉田明<sup>2</sup>, 鐙木裕<sup>3</sup>  
(東京都市大名誉教授<sup>1</sup>, 東京都市大総合研究所<sup>2</sup>, 東京都市大工<sup>3</sup>)
- (117-302-A-3) カーボンナノ試験管内へのアミロイド $\beta$ の導入とその線維形成過程の観察  
○干川康人, 後藤圭司, 和田健彦, 京谷隆 (東北大・多元研)
- (117-302-B-1) マクロ孔性フェノール樹脂ブロックから調製したキャパシタ用活性炭電極  
遠藤有希子<sup>1</sup>, ○白石壮志<sup>1</sup>, 恩田公康<sup>2</sup>, 塚田豪彦<sup>2</sup>(群馬大<sup>1</sup>, アイオン<sup>2</sup>)
- (117-302-B-2) スピンコート法による黒鉛薄膜の配向制御  
○児玉昌也, 曾根田靖, 吉澤徳子 (産総研・エネルギー技術研究部門)
- (117-302-B-3) 乱層構造炭素へのカリウムインターカレーションとステージング  
○阿久沢昇<sup>1</sup>, 玉田耕治<sup>1</sup>, 松本里香<sup>2</sup>, 曾根田靖<sup>3</sup>, 押田京一<sup>4</sup>  
(東京高専<sup>1</sup>, 東京工芸大<sup>2</sup>, 産総研<sup>3</sup>, 長野高専<sup>4</sup>)

(1) 炭素材料学会関係

学会関係：川口主査（運営委員長）より以下の報告があった。

(a) 入退会関係

賛助会員 2 件（昭和電工株式会社先端電池材料部、旭化成株式会社）の入会があった。

(b) 先端科学技術講習会 京都パルスプラザ（2012 年 7 月 6 日（金））

「リチウムイオン電池用炭素負極」を実施。事前参加申込者数 155 名、当日参加者数 12 名。合計 167 名の参加となり、盛況であった。

(c) スキルアップセミナー 連合会館（旧：総評会館）（2012 年 9 月 4 日（火））

「1 日でわかるグラフェン：応用編 - エレクトロニクス応用からエネルギー貯蔵まで」を実施予定。

(d) 第 39 回年会（2012 年 11 月 28～30 日、長野市生涯学習センター）

講演申込締切：2012 年 8 月 24 日（金） 24 時

原稿投稿締切：2012 年 10 月 11 日（木） 15 時

今回はナノカーボン特別セッションを設ける（共催、協賛学会会員であれば、炭素材料学会員以外でも講演可能：口頭発表のみ）。その他、詳細については学会 HP 参照。

(e) Carbon2017 あるいは Carbon2020 の日本開催について

京谷会長が Carbon2012 (Krakaw) にて Carbon2017, Carbon2020 日本開催についてプレゼンテーションを実施。2017 年度の開催候補地は、オーストラリア、トルコ、日本となるだろう。次回 2013 年度（リオ）あるいは 2014 年度（済州島）の会議で正式決定となる。

(f) 平成 24 年度学会賞

応募締切：7 月 31 日

(g) 連載講座の書籍化「一新しく炭素材料実験を始める人のために－製造・合成編－」

これまで出版された連載講座の続編として、炭素材料学会より出版する方向で、次年度予算に書籍化のための予算を組み込んで、編集・出版作業を進める予定。

(h) 新カーボン用語辞典（仮称）について

新カーボン用語辞典について検討中。用語辞典の位置づけ、会員の要望について Web アンケートを実施する予定。

(i) 夏季セミナー

セミナーの主催（運営）を次回から学会とするかどうかの議論については、今回のセミナー中に夏季セミナー委員で話し合いをして、その後、学会・運営委員会と相談する予定。

(j) Carbon2012 参加補助

炭素材料学会・Carbon2008 記念基金より参加補助（3 件の応募があったが、その後 2 件が辞退、結果的には 1 名：4 万円の補助）を行った。

(k) 第3回日独セミナー参加補助

炭素材料学会・Carbon2008 記念基金（運営補助）から若手研究者へ1件の参加補助（8万円）を行った。

(l) 炭素材料学会「女性カーボンの会」

炭素材料学会の活性化の一つとして「女性カーボンの会」を考えている。まず、炭素材料業界で働く女性による座談会を計画している。座談会の様子は炭素の「談話室」に掲載し、内容を発信する。炭素業界が男女関係なく活躍できる魅力ある分野であり、当学会を含め今後さらに盛り上げていこうという趣旨。

(m) 法人化について

現在、公益法人がスタートしたばかりであり、当学会はしばらく様子を見る。

(n) 学会賞規定の修正

訂正版を来年4月号「炭素」に掲載する予定（お詫び文と共に）。

(o) その他

材料工学連合講演会共催分担金（社団法人 日本材料学会）の経緯についてご存じの方があれば、お知らせ頂きたい。

炭素誌関係：白石氏（編集委員長）より以下の報告があった。

(p) 253号は6月5日に発行済み

(q) J-stage3に移行済み。投稿審査システムが募集されているので、炭素材料学会からも応募する。

(r) 夏季セミナーは有名炭素材料メーカーの情報収集が可能。大学院生にお勧め。

(2) Carbon 誌関係

京谷幹事(Editor)より以下の報告があった。

Carbon 誌のインパクトファクターは2011年には5.378に上昇した。投稿数は2008年の約2000件に対し2009年は3560件。Reject率は80%程度。日本からの投稿数は世界5番目に後退した（中米韓印日の順）。中印からの投稿数増加、日米の投稿数は減少。

(3) 国際会議関係

特になし

(以上)